宇治拾遺物語

児のそら寝 ― 品詞分解 ―

今（副）　は（係助・区別）　昔、（名）　比叡の山（名）　に（格助・場所）　児（名）　あり（ラ変・用）　けり（過・終）。　僧たち、（名）

よひ（名）　の（格助・体修）　つれづれ（形ク・用）　に（格助・時間）、　「いざ、（感）　かいもちひ（名）　せ（サ変・未）　む（意・終）。」

と（格助・引用）　言ひ（ハ四・用）　ける（過・体）　を（格助・対象）、　こ（代）　の（格助・体修）　児、（名）　心寄せ（名）　に（格助・状態）

聞き（カ四・用）　けり（過・終）。　さりとて、（接）　し出ださ（サ四・未）　む（推・体）　を（格助・対象）　待ち（タ四・用）　て（接助・単接）

寝（ナ下二・未）　ざら（打・未）　む（仮・体）　も、（係助・同類）　わろかり（形ク・用）　な（強・未）　む（推・終）　と（格助・引用）　思ひ（ハ四・用）

て、（接助・単接）　片方（名）　に（格助・場所）　寄り（ラ四・用）　て（接助・単接）、　寝（ナ下二・用）　たる（存・体）　よし（名）　に（格助・状態）て、

出で来る（カ変・体）　を（格助・対象）　待ち（タ四・用）　ける（過・体）　に（接助・単接）、　すでに（副）　し出だし（サ四・用）　たる（完・体）

さま（名）　に（格助・状態）て、　ひしめき合ひ（ハ四・用）　たり（存・終）。

こ（代）　の（格助・体修）　児、（名）　さだめて（副）　おどろかさ（サ四・未）　むず（推・終）　らむ（現推・終）　と（格助・引用）

待ちゐ（ワ上一・用（タ四・用＋補動））　たる（存・体）　に（接助・単接）、　僧（名）　の（格助・主格）、　「もの申し（サ四・用（謙）僧→児）　と（格助・引用）

さぶらは（補動・ハ四・未（丁）僧→児）　む。（意・終）　おどろか（カ四・未）　せ（尊・用　僧→児）　たまへ（補動・ハ四・命（尊）僧→児）。」

言ふ（ハ四・体）　を（格助・対象）、　うれし（形シク・終）　と（格助・引用）　は（係助・区別）　思へ（ハ四・已）　ども、（接助・逆確）　ただ（副）　一度（名）

に（格助・状態）　いらへ（ハ下二・未）　む（仮・体）　も（係助・同類）、　待ち（タ四・用）　ける（過・体）　か（係助・疑問）　と（格助・引用）

もぞ（連語（係助・同類＋係助・強意（係））　思ふ（ハ四・体（結））　とて、（格助・引用）　いま（副）　一声（名）　呼ば（バ四・未）　れ（受・用）

て（接助・単接）　いらへ（ハ下二・未）　む（意・終）　と（格助・引用）、　念じ（サ変・用）　て（接助・単接）　寝（ナ下二・用）　たる（存・体）　ほど（名）

に（格助・時間）、　「や、（感）　な（副）　起こし（サ四・用）　そ。（終助・禁止）　をさなき（形ク・体）　人（名）

は（係助・提示）　寝入り（ラ四・用）　たまひ（補動・ハ四・用（尊）僧→児）　に（完・用）　けり。」（詠・終）　と（格助・引用）　言ふ（ハ四・体）　声（名）

の（格助・主格）　し（サ変・用）　け（過・已）　れ（接助・順理）　ば、（接助・順理）　あな、（感）　わびし（形シク・終）　と（格助・引用）　思ひ（ハ四・用）　て（接助・単接）

、　いま（副）　一度（名）　起こせ（サ四・命）　かし（終助・念押）　と（格助・引用）　思ひ寝（名）　に（格助・状態）　聞け（カ四・已）

ば、（接助・順偶）　ひしひしと、（副）　ただ（副）　食ひ（ハ四・用）　に（格助・状態）　食ふ（ハ四・体）　音（名）　の（格助・主格）　し（サ変・用）

けれ（過・已）ば、（接助・順理）
「えい。」（感）と（格助・引用）
ずちなく（形ク・用）
いらへ（ハ下二・用）
て、（接助・単接）
無期
たり（完・用）
の（格助・体修）
けれ（過・已）
のち
ば、（接助・順理）
僧たち、
に、（格助・時間）
笑ふ（ハ四・体）
こと
限りなし。（形ク・終）